学校だより
「One-up」通信

令和３年１月８日（金）
水戸市立見川中学校
NO:１６（令和２年度）

スローガン「団　結　ー共によくなるためにー」

大掃除，放送による集会（12/23(水)）

１２月２３日（水），全学年で，１年間お世話になった校舎に感謝の気持ちを込めて大掃除を行いました。その後，各教室において，冬休み前の放送による集会が行われました。令和２年の反省を１年生の笹島さん，２年生の角田さん，３年生の廣木さんが，落ち着いた態度で今年の振り返りとともに来年への抱負について立派に発表を行いました。

充実した２０２０年から

一年　笹島　かんな

私の２０２０年は、「反省」と「仲間」という言葉で表すことができます。中学校生活では定期テストや三大行事など、日々の努力の大切さや学級の仲間と団結することの大切さを学びました。

定期テストでは、自分が思ったより問題が難しく、点数があまりよくありませんでした。

その原因は自分のやりたいことばかりを先に優先してしまい、テスト勉強の時間をあまりとれなかったからです。今回の反省から、私はメリハリのある時間の使い方を学ぶことができました。もう一つの「仲間」という点では、三大行事の一つである合唱コンクールが心に残りました。なぜなら、朝や昼休み、放課後の練習で常に全力でみんなと歌った行事であり、私たちのクラスが学校で一番最初に歌うことになった印象深い行事だからです。

練習はうまくいかないことが多かったのですが、それでもみんなで一丸となってがんばることができました。本番の一年三組の歌声は忘れられないものとなり、みんなが目指していた入賞には届きませんでしたが、私にとって最高な一日になりました。この経験を通して、仲間の大切さと協力の重要性を学ぶことができました。

冬休み明けからは、気持ちを切り替え、これまでの反省を生かして学習や部活動など文武両道でがんばっていきたいです。

生活を振り返って

二年　角田　結菜

休校期間があけて二年生として動きはじめてから半年が過ぎ、二つの反省点を見つけました。

一つ目は学習面です。テストはケアレスミスが多く、自分の納得のいく点数や順位をとることができませんでした。原因としては、テストがない期間はマイスタしかやらず、範囲表が出てから焦ってワークに取り組み、ワーク以外の勉強時間を確保することがあまりできなかったからです。来年はついに受験生になるので、志望校に合格するためにも、今よりも計画的に、効率よく勉強しなければなりません。これからは、その日のうちに習った箇所のワークを解くことで時間にゆとりをもち、ケアレスミスをしないために多くの問題に取り組んでいきたいです。

二つ目は部活動です。私は吹奏楽部で部長を務めています。三年生が休部をし、先輩としての自覚を持てるようになってきたとき、部長をまかされました。今まで自分のことで精一杯だったため視野を広げ全体を見て行動しなければならないというプレッシャーでつらいときもありました。周囲の支えもあり、少しずつ先輩という立場にも、部長という重要な役割にも慣れてきましたが、まだまだ今までの先輩たちにはとどきません。吹奏楽部の目標であるコンクールで県大会に出場するために、さらに努力をしていきたいです。

来年私達は最高学年になります。部活動や生活面で後輩の手本となり、見川中学校の顔としてふさわしい学年を目指していきます。

今年を振り返って

三年　廣木　翔

私は、今年を振り返ってみて、思い返すことが二つあります。

一つ目は、合唱コンクールです。私は個人的に三年間で一番力を入れた行事だと思っています。コロナ渦でありながらも、自分たちに何ができるかを考え、最後の最後まで歌を磨き上げました。私は、音楽的なことはあまり分からなかったので、自分自身が全力で声を出すことで、仲間が歌いやすくなればいいと思い、空気が重いときでも率先して声を出しました。当日は、悔いなく中学最後の合唱が終えられよう、魂を込めて歌いました。合唱を本気でやることを通して、私は、何事も、努力した分、返ってくる喜びも大きいことを学びました。合唱コンクールを終えてからは、一つのことを、みんなで集中・団結して行ったことで、学級の雰囲気も良くなったと感じています。

二つ目は受験勉強です。三年生は一か月後に私立入試、三か月後に県立入試を控えています。私はこの一年間で初めて、しっかりとした勉強をしました。二年生までは勉強という言葉を聞いただけで、憂鬱になるぐらい勉強が苦手でした。しかし、四月～五月の休校期間中に、「このままではまずい」と危機感をもち、まず苦手分野のあぶりだしをしました。薄い問題集を購入し、ひととおり問題を解きました。各教科でつまずきやすい単元を洗い出し、紙にまとめ上げ、その紙を部屋の目立つところに貼りました。そして、その一つ一つの弱点を克服するために、毎日三時間机に向かい続けました。最初は全く集中できず、娯楽へ逃げてしまうことがよくありました。しかし、テストの点数が伸びてきたら、苦手としていたところが徐々になくなっていくことが、「勉強することが楽しい」という気持ちにつながっていきました。すると、毎日三時間勉強することも、前向きな気持ちで取り組めるようになってきました。三年の学習が進むにつれて課題は日に日に増え、今でも全てを網羅したわけではありません。冬休みは、質・量ともに、今までよりも充実した学習を実現し、私立入試に向けてできることをしていきたいと思います。

人生で最初で最後の中学生活も残り三か月です。毎日の一分一秒を大切にして過ごしていきたいと思います。